

年間第五主日

2013.2.10

ルカ 5・1-11

今日の福音は、ルカ福音書が伝えるイエスの最初の弟子となったガリラヤ湖の漁師たちとイエスとの出会いの場面です。今日ミサの中で聴いた、ルカ福音書のイエスとその最初の弟子となったガリラヤ湖の漁師たちの出会いの物語は、マルコ福音書にもマタイ福音書でも語られています。マルコ福音書とマタイ福音書では、今日の福音のイエスと弟子たちとの出会いこの場面は、ガリラヤで神の国の福音を宣伝をはじめたイエスによって行われた最初の具体的な行為として語られています。この二つの福音書では、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう。」とイエスに声をかけられただけで、それまでガリラヤ湖の漁師として生きてきたシモンとその仲間たちは、すべてをその場に残してイエスの後に従う者たちとなったと語られています。

マルコ福音書とマタイ福音書でイエスと弟子たちのこの最初の出会いの場面を読むとき、どうしてイエスの最初の弟子となった彼らは、イエスにあのように声をかけられただけで、すべてをその場に残してイエスの後について行くことになったのか、私たちにはよく分からないという思いが残ってしまいます。それに対して、今日のルカ福音書では、ガリラヤ湖の漁師であったシモンとその仲間たちがイエスの呼びかけに応じてイエスの後について行くことになる前に、彼らがガリラヤの湖で直接体験したイエスによってもたらされた驚くべき出来事が語られています。今日のルカ福音書に語られているこのような出来事を経験した後でなら、イエスの呼びかけに応じて何故彼らが直ちにすべてを捨ててイエスの後について行ったかがよく理解できるように思えます。ルカ福音書は、私たちの素朴な疑問に応えるために、今日の福音のイエスによってもたらされた奇跡的な大漁のエピソードを語っているようにも思えます。

けれども、ルカ福音書が今日の福音のイエスによって行われた奇跡の大漁のエピソードを語る意図はそのようなことだけに尽きるものではありません。ルカ福音書はイエスの最初の弟子となった人々が体験したこのような出来事を語ることによって、イエスのこの最初の弟子となった人々が出会ったイエスというお方がどのようなお方であるのかということを示そうとしているのです。ルカ福音書のそのような意図を前提とした上で、あらためて今日のルカ福音書に語られていることを味わってみたいと思います。

今日のルカ福音書では、マルコ福音書とマタイ福音書とはちがって、イエスはガリラヤ湖の漁師であった最初の弟子たちがそれぞれいつものとおりに働いていた彼らの生活の場の側をたまたま通り過ぎようとしたのでありません。今日のルカ福音書が語ることは、ゲネサレトの湖畔、すなわちガリラヤ湖の湖畔に立たれたイエスの周りに神のことばを聴こうとして大勢の群集が押し寄せて来たという描写で始まっています。弟子たちがイエスの後につき従うようになる前に、すでに神の国の福音の宣教活動はイエスによって始められていたのです。

ガリラヤ湖の漁師として生きてきた弟子たちは、いつものように夜の漁を終えて、舟を岸に繋いで網を洗っていたのです。徒労に終わった一夜の漁を終えて、最後に網を洗って、その日の仕事を終えようとしていたのです。そのような彼らにイエスは声をかけて一時彼らの舟を借りようとしたのです。ルカ福音書では、他の福音書とはちがって、シモンとその仲間たちはこのとき初めてイエスと出会ったのではないことになっています。カファルナウムの会堂で悪霊を追い出され、安息日の礼拝を終えたイエスはシモンの家に行って、そこで熱を出して寝込んでいた姑を癒してくださったことが語られています。そんなことがあったからでしょう、シモンと呼ばれていたペトロは、徒労に終わった一夜の仕事じまいの最中であつたにもかかわらず、イエスの求めに応じて、再び湖に舟を漕ぎ出したのです。そのシモンの舟の上からイエスは岸边に立つ人々に神の国の福音を語り聞かせてくださったのです。イエスのお側近くでイエスの語られることに耳を傾けながら、シモンは誇らしい思いに満たされていたに違いありません。ここまでなら、ガリラヤの漁師であつたシモンにも喜んでイエスの手伝いをするのが出来たのです。

けれども、イエスがあのかしシモンに求めたことは、相手がイエスでなければシモンは決して応じようとはしなかったはずのことです。「先生、私たちは、夜通し苦勞しましたが、何も取れませんでした。」このことばの中にあのかの時のシモンの思いが込められています。「しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう。」シモンが自分のそのような思いを振り切つてこのように応えた時、そこに全く新たなことが起こつたのです。イエスのことばに従つて網を降ろすという行為によつて、彼は自分が決して予想もしていなかつた、予想することも出来なかつたことを体験することになったのです。シモン・ペトロはここで始めて自分の舟に乗り込んでくださったイエスというお方と眞実出会つたのです。自分の側におられる方がどのようなお方であるかを直感的に悟ることが出来たのです。

「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです。」シモンは

このとき、自分が「先生」と呼んでいたイエスのうちに神の現われを見たのです。今日の第一朗読で聴いた、旧約のイザヤ預言者が見たように、神の顕現のお姿を見たのです。

このような経験をした以上、「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる」とのイエスのことばに従って、すべてを捨ててイエスに従うことは、シモンとその仲間たちにとって、もはや選択の余地のありえない決断であったのです。あの時イエスのことばに従って、使い慣れた自分たちの網で驚くほどに大量の魚を取ることが出来た彼らは、その自分たちがイエスによってもたらされた神の国の福音の網によって救いあげられていることを知ったのです。

今日の福音に語られている、イエスの最初の弟子たちがガリラヤの湖で経験したことは、この最初の弟子たちから始まった、イエス・キリストのもたらした神の国の福音を伝える私たちの教会の原体験です。そしてそれは、その教会と出会ってあの最初の弟子たちのように、イエスの福音の網の中に救い上げられた私たちの信仰が目指す模範像でもあるはずです。

シモンにとってそうであったように、私たちのこれまでの経験では決してありえないと思えることを、イエスの言われるままに、「しかし、おことばですから網を降ろしてみましよう」と行動に移すことが私たちのイエス・キリストへの信仰の姿であり続けるよう、ここを決めて祈りたいと思います。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高